

第14回ホリスティック医療塾 報告書

愛場庸雅（日本ホリスティック医学協会関西支部）

開催日時：2016年6月19日（日）

今回の医療塾は、ディベート討論会形式で、「魂を癒す!？」というテーマで行いました。2013年にも「たましいを考える」というテーマでフリーディスカッションを行った事がありますが、今回も10名の方とスタッフ6名の参加で、多くの職種の方々に参加していただくことが出来ました。

最初に10分ほど、3~4人のグループで、「心と魂の違いは？」というテーマで話し合っていたいただきました。その後「肯定派」の代表として山田義帰先生に、「否定派」の代表として黒丸尊治先生に、それぞれ考え方を提示してもらい、ディスカッションを開始しました。ディベート討論会なので、あえて自分の本当の考えとは違う立場からの発言もありです。出てきた意見とその後のアンケートから、少し整理して並べてみます。

●肯定、否定それぞれの根拠は？

肯定

- ・こころは一人ひとりの人間の体の中にある意識であるが、魂は情報をもったエネルギーが人間のからだに入ってきたものである。
- ・インド人が何千年も前に書いた預言書があり、そこに書かれていることが現在の自分の経験と合致する。これは輪廻転生でないと説明ができない。
- ・胎内記憶というのもあり、「こころ」だけでは説明できない。受精の瞬間の記憶がある子もいる。人間感覚と違う記憶を持っているこどももいる。
- ・臨死体験された患者が、知りえない事象について語られる。
- ・この空間に動画の情報が飛び交っているように、見えないから無いのではなく、見えなくても存在している。

否定

- ・魂は心の延長線上にある。科学でわかっていない「こころ」の領域、という考え方で十分に説明がつく。
- ・死後の世界や魂のあるなしは証明のしようがない。スピリチュアルな考えは、「事実」というよりも「思想」である。「感謝」や「見えない何かを考えること」で人生がより豊になれるのであれば、それは「こころ」の力である。
- ・臨死体験も脳の化学物質の影響という研究もされている。
- ・前世や来生、過去や未来が見えているというリーディングは、メンタルマジックの手法で説明できる。錯視の実例を提示して説明するが、錯覚は簡単に作

れる。それを事象と捉え、スピリチュアルとしてしまうと、混乱してしまう。

- ・「記憶」はとてもあいまいなもので、都合のよいように組み替えられる。

●たましいとは？

- ・魂というものは、皆捉え方が違う。人それぞれに考える心と魂の定義がある。
- ・魂はエネルギーと考えると理解しやすい
- ・理解できないことを「魂」と定義付けしているように思う。各自の定義付けがあるが、理解できないものを「魂」と置き換えて理解するのか、宗教や量子力学などの科学といった文脈の中で論議するのか、整理の必要がある。
- ・「人生観」「生きがい」の意味合いと、「人智を超えたもの」の意味合いがある。
- ・「スピリット」というギリシャ時代からの世界のとらえ方と、日本的な文化を背負った「魂」という言葉の持つイメージは異なる。
- ・たましいは「思想」、ということであれば、「ある」「ない」という論点ではなく、「信じるか、信じないか」という話になる。メリットがあるか、受け入れられるかどうか。

●直観や第六感を魂に含めるか？

- ・家族の生死にかかわった時、「感じた」経験がある。
- ・人間は自分自身に合っている直観、自分にとって都合のいいことしか記憶していない。直観と魂を結びつける必要はない

●心と魂の違いは？

- ・心は一人ひとりの人間の体の中にある意識、魂は情報をもったエネルギーが人間のからだに入ってきたもの。
- ・魂は心の延長線上にある。
- ・からだから出たら魂、からだにあったら心。
- ・ころころは変わる。性格が変わったり、生き方が変わるのは、ころころがどう動くか。魂は自分の人生が導かれるというような本質で、変わらないもの。三つ児の魂100まで。
- ・魂は輪廻転生している。ころころは現世のからだに宿る。ころころを鍛錬することは大切。
- ・「内なる気づきと悟り」、に対して「天から降りてくるメッセージ」

●スピリチュアル・ビジネスについて

- ・アロマショップに行くと「天使と交信」している人がいて、「被りたいんですね」と言われてしまった。

- ・言い方で詐欺まがいになる。
- ・いろんな人がいるから、出会いのよしあし。
- ・手品の手法でもあるリーディングを高額で提供するのでは問題だと思う。

●「魂が病んでいる」とか、「魂を癒す」という言い方があるが、体や心の病は魂の病気なのか？ スピリチュアルヒーリングとはなにか？ 魂を癒すことはできるのか？

- ・魂は本質的なもの。魂が病むということはないように思う。
- ・魂が病むというより、心が病むというほうが理解しやすい。こころの在り方、のほうに病に影響すると思う。
- ・癒されるという感覚はからだのどこにあるのかと考えると、魂ではなくこころで治っていく。
- ・がんの方は頑固な方が多い。こころを入れ替えたなら治る病気もたくさんある。
- ・ヒプノセラピストとしては、前世に帰って気づきを得る、魂を癒す、のがスピリチュアルヒーリング。グラウンディングは大切。
- ・魂を癒す必要があるのか。魂はより高次元ではないか。自ら成長するために自ら望んできているのではないか。「難病の子はかわいそう」という視点ではなく、「病気になったり、つらい感情を経験するのは、成長したいがために一番やりたくないテーマを選んでこの世界にきている」そう考えるほうが人間にとって都合がよい。
- ・障害のある人は、魂の成長のために障害を選んできている。御本人から「カルマかな？」と言われたが、「違う」と言ってあげられると思う。
- ・ふわふわしている感じの人は、心が満たされていない、愛情を注がれていない。
- ・浮遊霊が憑依することがある。自分というものをしっかり持っていない方に多い。魂を理解すると治っていかれる。向精神薬を投与されて体調を崩していても、魂に目を向けるようになると、家族が愛情を注ぐと、回復されている。
- ・「第三の目を開きたい」という人が多いが、からだの土台と胃腸を整えると落ち着く。

●医療への適応

- ・ホスピスに勤務していると興味深い。人それぞれが癒され安心する方法であれば、どの手法でもよい。
- ・祈りの研究がアメリカで行われている。誰かの祈りによって体調の変化なども報告されている。やはり、スピリチュアルな癒しはあるのでは？
- ・その研究は追試験が行われ、祈りの効果の有意差は出ていない。

- ・祈りでも、手当でも、アロマでも手法はなんであれ、関係性の中での「癒し」がある。相互作用ではないか。
- ・患者の視点と医療者の視点を分けて考え、それぞれの視点の違いを明確にしたうえで、押し付けではないオーダーメイドの関わりになるのではないか。相手に合わせたかかわり、相手が必要な手法を行うことで、思考や認知の歪みに気づくことが必要ではないか。
- ・医療という視点から見て、魂があるという文脈が益になる、健康になるのであればそれでよい。
- ・スピリチュアルな考え方を持っているほうが、ずっと幅が広がるし、生き方も豊かになる。いろんな考え方や視点を患者さんに合わせたやり方でやるのがいい。スピリチュアルな話で癒される人もいるし、死後はないという話でもどちらでもいい。だから思想だと思う。いろんな視点を持っているとは大切。